

概要版

第2次蒲郡市多文化共生推進プラン基礎調査 【調査結果報告書】

令和8年3月
蒲郡市

I. 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、蒲郡市在住の外国人市民・日本人市民の意識や生活実態を調査し、多文化共生社会の実現と、「蒲郡市多文化共生推進プラン」見直しのための基礎資料とすることを目的として実施した。

2 調査の実施概要

■実施概要

区分	対象	調査方法	調査期間	回収数	回収率
外国人	18歳以上の外国人市民1,500人 を無作為抽出	郵送配布 WEB 回答	令和7年11月21日から 12月12日まで	930	62.0%
日本人	インターネットモニター150名	WEB 調査	令和7年11月26日から 12月5日まで	150	100.0%

グラフ等を見る際の留意点

- ・グラフの中の「n」とは、Number of Cases の略で、各設問に該当する回答者総数を表す。
- ・グラフの中の「%」は、小数点第2位以下を四捨五入しているため、単数回答の設問（1つだけに○をつける）であっても、合計が100%にならない場合がある。
- ・複数回答（MA）の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答の合計比率は100%にならない場合がある。複数回答の質問はMAと記載している。

II. 外国人市民調査の結果（抜粋）

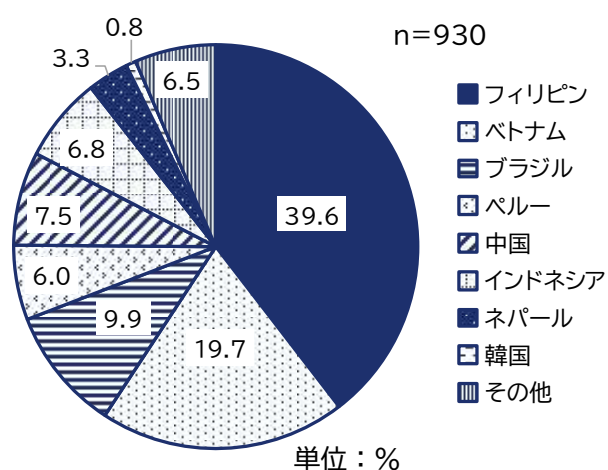
1 属性

- 回答者の国籍は「フィリピン」が 39.6%で最多、次いで「ベトナム」が 19.7%、「ブラジル」が 9.9%。
- 回答者の年齢は「20～29 歳」が 32.5%と最多で、若い年齢の回答が多い。
- 回答者の在留資格は、全体では「永住者」が 35.1%と最も多い。国籍別でみると、フィリピン・ブラジル・ペルーは永住者・定住者が多く、ベトナム・インドネシアは技能実習・特定技能が多いなど、国籍によって在留資格に明確な傾向の違いがみられる。

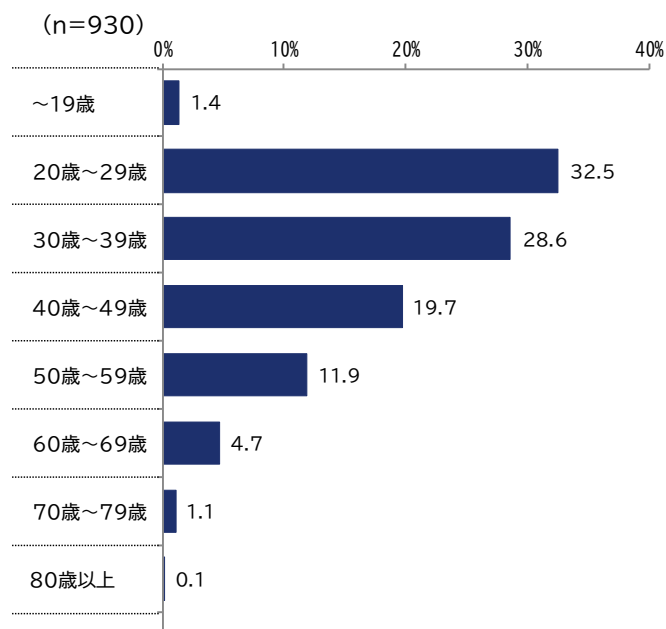
■回答言語の内訳（参考）

調査数	日本語	英語	スペイン語	ポルトガル語	中国語	タガログ語	ベトナム語	やさしい日本語
930	101	255	51	77	44	175	180	47
100%	10.9%	27.4%	5.5%	8.3%	4.7%	18.8%	19.4%	5.1%

■回答者の国籍



■回答者の年齢



■回答者の在留資格（国籍別）

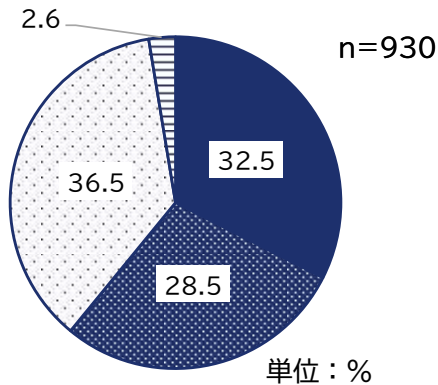
単位：%

在留資格	全 体	永住者	定住者	技能実習	特定技能	日本人の配偶者等	永住者の配偶者等	技術・人文知識・国際業務	家族滞在	特定活動	留学	特別永住者	その他
全体	n=930	35.1	20.3	14.9	10.6	4.7	1.7	5.6	2.0	0.6	1.8	0.6	1.8
国籍	フィリピン	n=368	40.5	40.8	5.4	3.0	6.3	2.2	0.3	0.0	0.5	0.3	0.5
	ベトナム	n=183	6.6	1.6	37.2	27.3	2.2	1.1	17.5	3.3	0.0	1.1	0.0
	ブラジル	n=92	68.5	25.0	0.0	0.0	2.2	0.0	0.0	2.2	0.0	0.0	2.2
	ペルー	n=56	75.0	17.9	0.0	0.0	1.8	1.8	0.0	1.8	0.0	1.8	0.0
	中国	n=70	44.3	0.0	8.6	10.0	5.7	4.3	5.7	4.3	2.9	8.6	5.7
	インドネシア	n=63	9.5	1.6	55.6	23.8	1.6	0.0	4.8	1.6	1.6	0.0	0.0
	ネパール	n=31	3.2	0.0	3.2	25.8	3.2	0.0	22.6	19.4	0.0	12.9	9.7
	韓国	n=7	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	57.1	0.0
	その他	n=60	33.3	3.3	15.0	13.3	13.3	3.3	6.7	0.0	1.7	6.7	3.3

2 日本語能力について

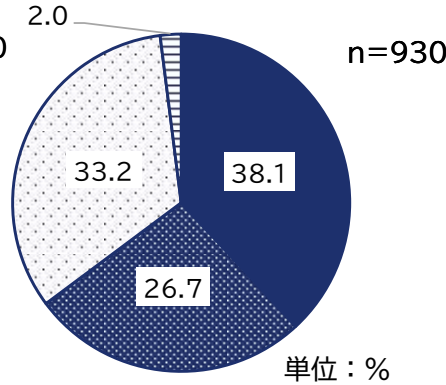
- 日本語能力について、聞く・話す力については「全くできない」割合はごく少数にとどまり、「ゆっくりなら」～「生活に問題なくできる」割合が6割以上となっている。
- 一方で、読み書きの力については「簡単な漢字が読め、書ける」と「難しい感じが読め、書ける」を合わせた割合が37.1%にとどまり、「全く分からない」割合は16.9%となった。

■日本語を聞いて理解できる程度



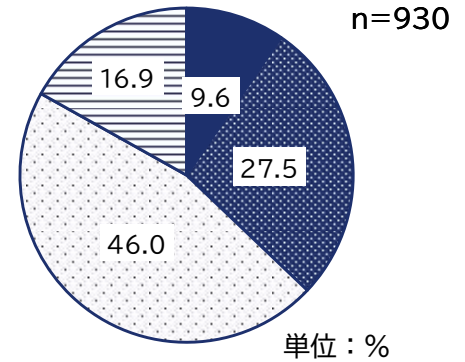
- 生活に問題なく話すことができる
- ゆっくりなら話すことができる
- 単語であれば話すことができる
- 日本語を全く話すことができない

■日本語を話せる程度



- 生活に問題なく理解できる
- ゆっくりなら理解できる
- 単語であれば理解できる
- 日本語の会話を全く理解できない

■日本語の読み書きの程度

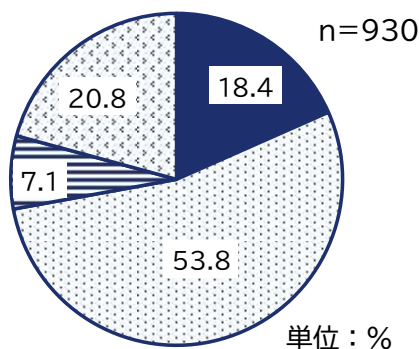


- 難しい漢字が読め、書ける
- 簡単な漢字が読め、書ける
- ひらがな・カタカナが読め、書ける
- 全く分からない

- 日本語を学ぶ手法について、「オンラインの教材で学ぶ」ことを希望している人が、53.8%となった。
- 日本語を学ぶのに都合のいい時間を尋ねたところ、決まった日時に教室に行き学びたい人は「土曜の10時～12時」「日曜の10時～12時」といった土日の午前中、オンラインの教材で学びたい人は日曜の18時～20時が都合のいい割合が高かった。

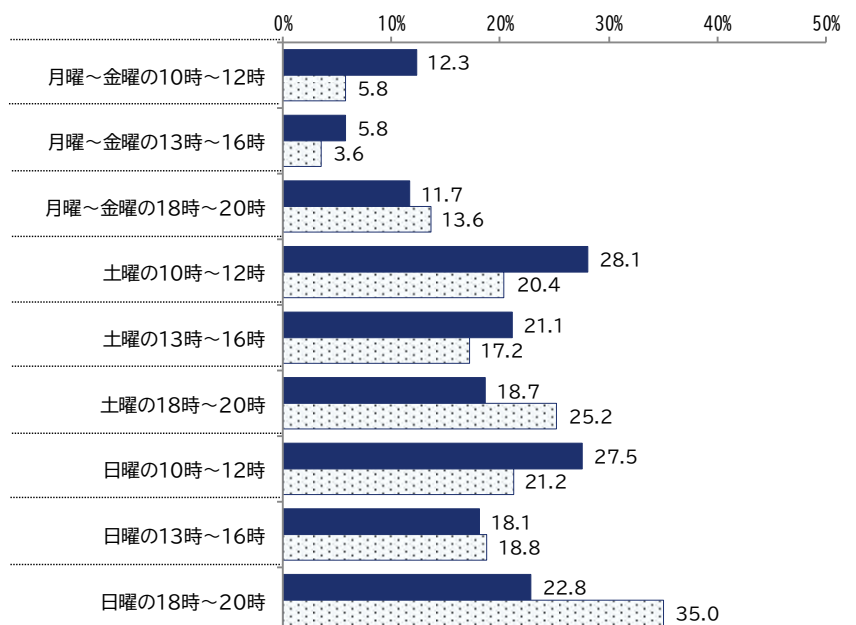
➤

■どのような方法で日本語を学びたいか



- 決まった日時に教室に行き学ぶ
- オンラインの教材で学ぶ
- その他
- 日本語を学ぶ必要はない

■日本語を学ぶ都合のいい時間帯（手法別） MA

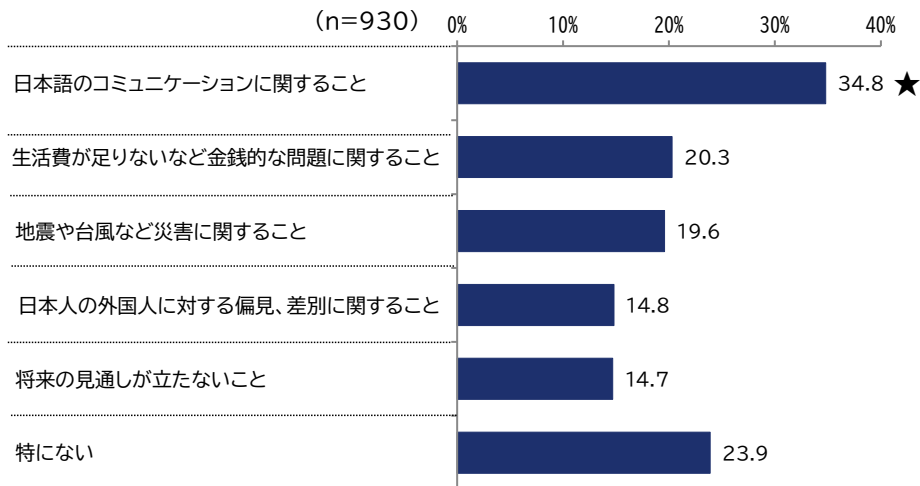


■ 決まった日時に教室に行き学ぶ (n=171) □ オンラインの教材で学ぶ (n=500)

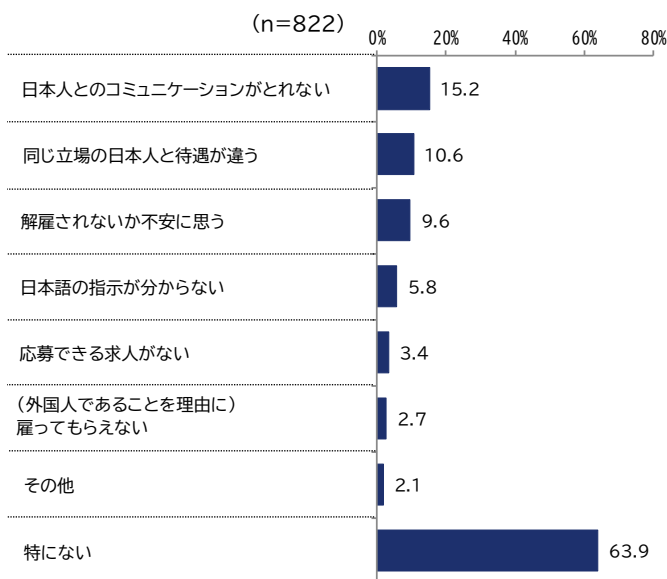
3 生活の困りごとについて

- 現在不安に感じていること・困っていることについて「特にない」が 23.9%となり、それ以外の 76.1%の人が何かしら不安や困りごとを抱えていることが分かった。困りごとの中では特に、「日本語のコミュニケーションに関すること」が 34.8%と高くなっている。
- 仕事に関係した困りごととしては、「特にない」が 63.9%となった。困りごとの中では、「日本人とのコミュニケーションがとれない」が 15.2%と最も高くなった。
- 子育てに関係した困りごととしては、「特にない」が 71.0%となった。

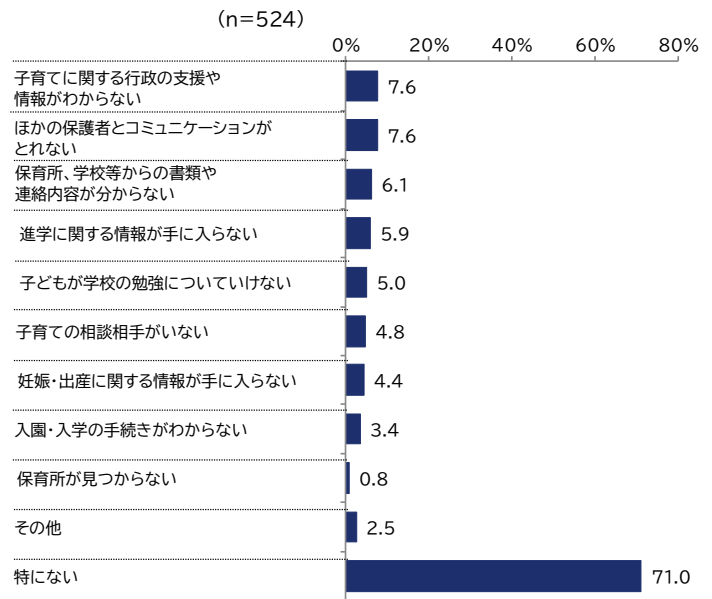
■現在不安に感じていること・困っていることは何か（上位5つ+特にない） MA



■仕事に関係した困りごととは何か MA

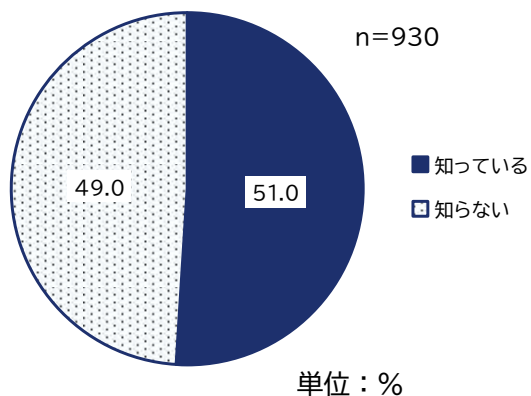


■子育てに関係した困りごととは何か（現在子育て中の人） MA

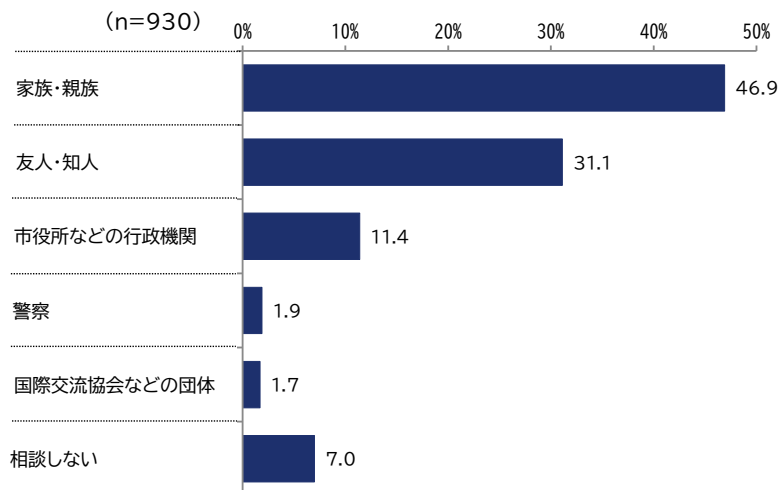


- 蒲郡市にある外国人相談窓口の認知度は「知っている」が51.0%となった。
- 外国人市民が困ったときに一番最初に相談するところとしては「家族・親族」「友人・知人」といった身近な人が多く、「市役所などの行政機関」や「警察」といった公的機関は13.3%となった。

■蒲郡市役所の外国人相談窓口を知っているか



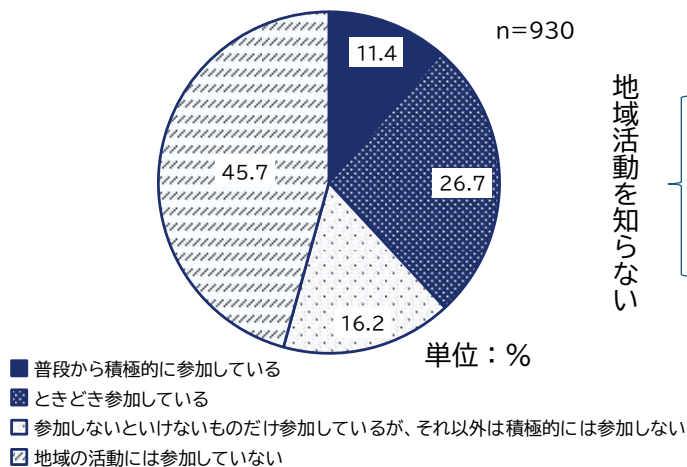
■困ったときに一番最初に相談するところはどこか



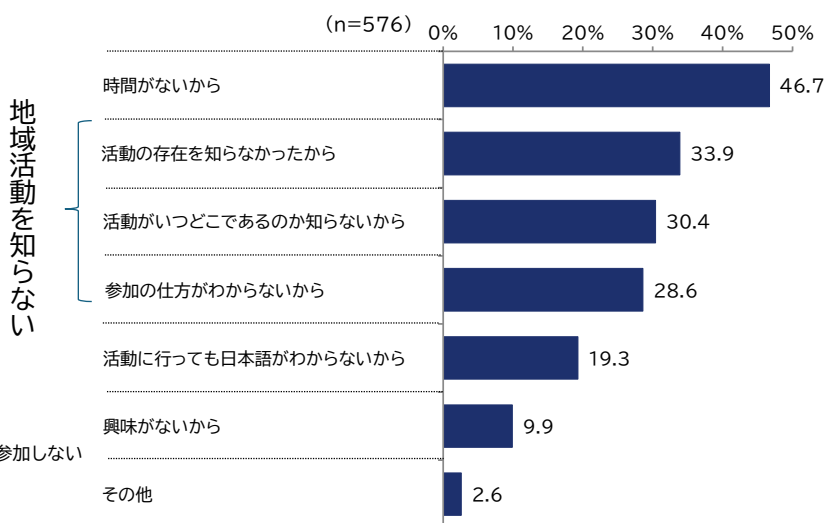
4 地域活動について

- 地域活動へ参加をしているかどうかについて、『参加している』（普段から積極的に参加している＋ときどき参加している）割合が38.1%となった。
- 地域活動に積極的に参加しない理由として、「時間がないから」（46.7%）のほかに、「活動の存在を知らなかったから」や「活動がいつどこであるのか知らないから」など、そもそも地域活動の認知度が低いという課題があることがわかった。

■地域の活動に参加していますか



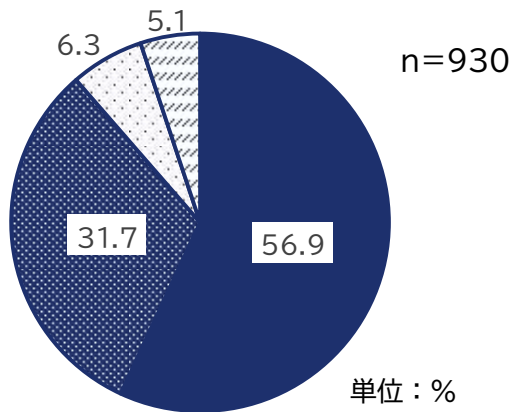
■地域活動に積極的に参加しない理由 MA



5 交流について

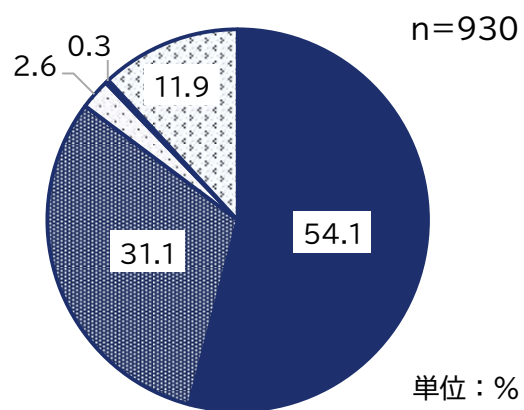
- 日本人市民との交流の意向について、『交流したい』（交流したい+どちらかといえば交流したい）が 88.6%となり、日本人市民への交流への意欲が見られた。
- 日本の風習や地域のルールを理解したいかについても、『理解したい』（全て理解したいと思う+一部理解したいと思う）が 85.2%となり、地域社会への理解の意欲が見られた。

■日本人市民と交流したいと思うか



- 交流したい
- どちらかといえば交流したい
- どちらかといえば交流したくない
- 交流したくない

■日本の風習や地域のルールを理解したいと思うか

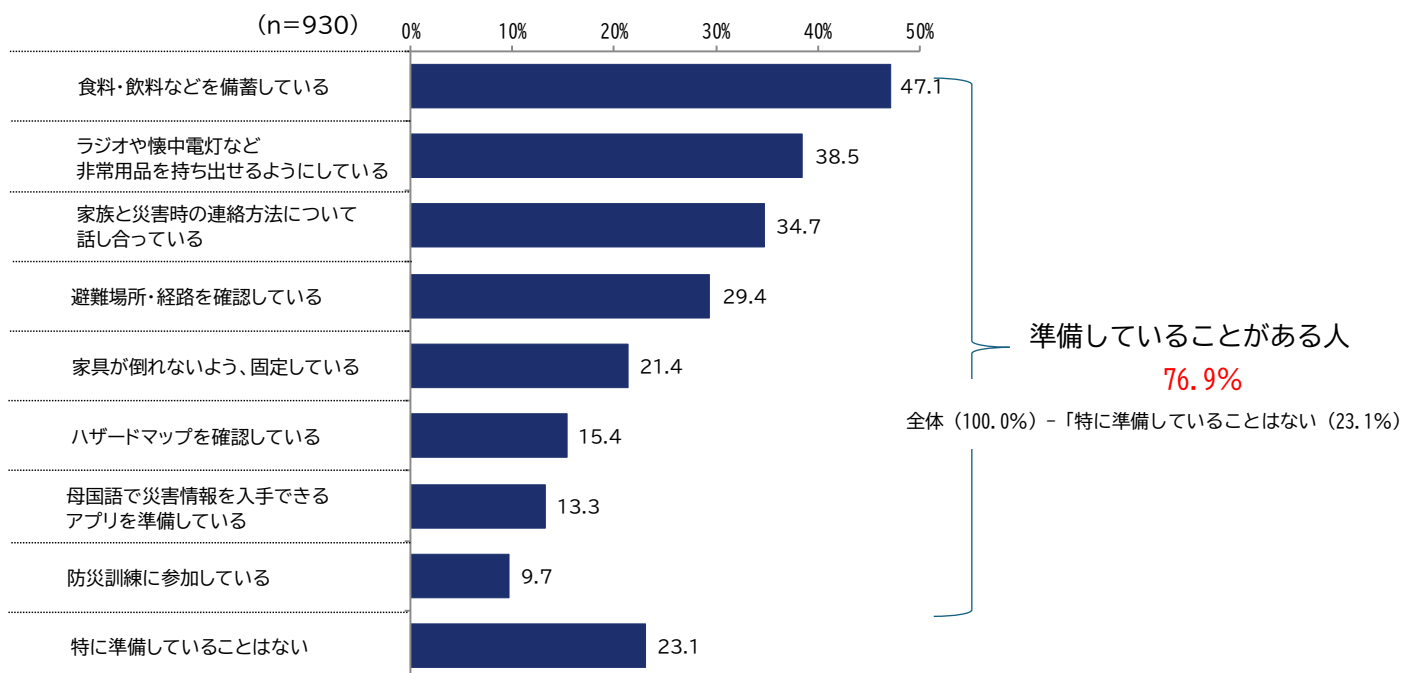


- 全て理解したいと思う
- 一部理解したいと思う
- あまり理解したいとは思わない
- 全く理解したいとは思わない
- よくわからない／考えたことがない

6 災害について

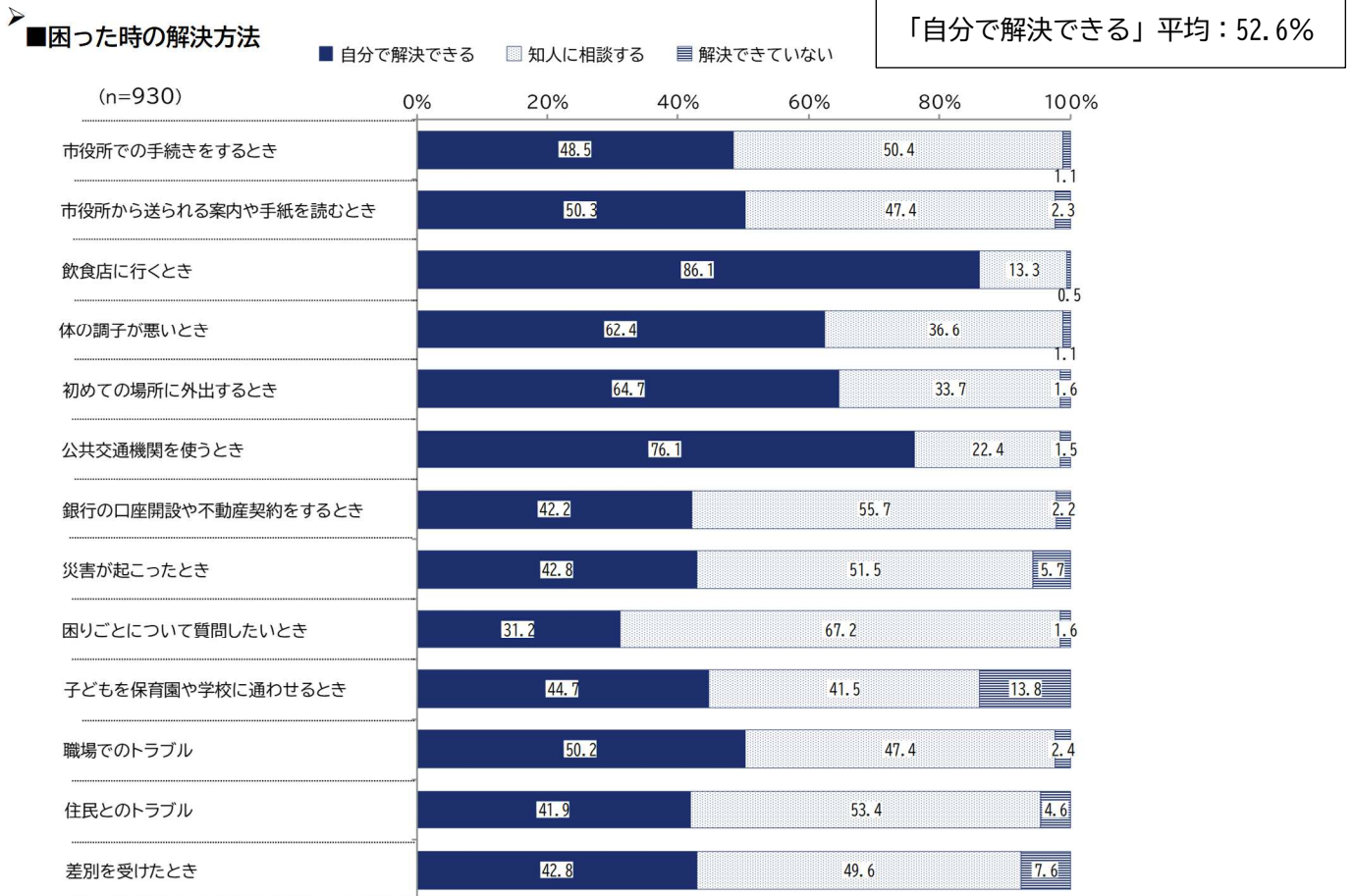
- 外国人市民が災害に備えて準備していることについて、「特に準備していることがない」が 23.1%となり、8割弱の人が何かしらの準備をしていることがわかった。
- 災害準備の項目としては「食料・飲料などを備蓄している」が 47.1%と最も高くなった。

■災害に備えて普段から準備していることの有無 MA

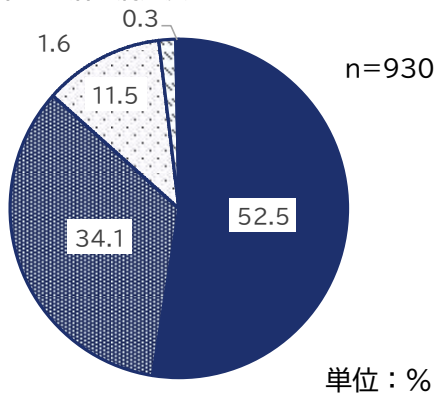


7 蒲郡市での生活について

- 困った時にどう解決するかについて、飲食店に行くときや公共交通機関を使うときといった日常生活に関することについては「自分で解決できる」割合が高い。一方で、「銀行の口座開設や不動産契約をするとき」といった複雑な手続き、「災害が起こったとき」、「困りごとについて質問したいとき」「住民とのトラブル」「差別を受けたとき」は「自分で解決できる」割合が低い。
- 蒲郡市の生活の満足度は、『満足』（満足している+やや満足している）が86.6%となっている。
- 蒲郡市への今後の居留意向は、『住み続けたい』（住み続けたい+できれば住み続けたい）が96.8%となっている。

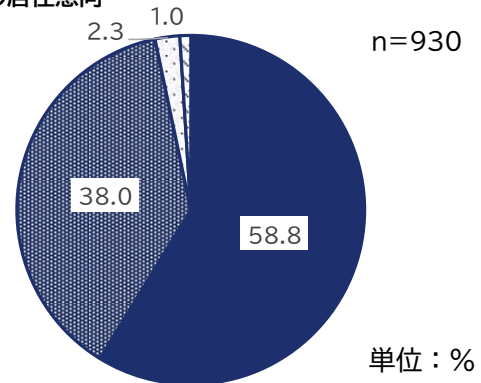


■ 蒲郡市の生活の満足度



- 満足している
- やや満足している
- どちらともいえない
- あまり満足していない
- 満足していない

■ 蒲郡市への居留意向



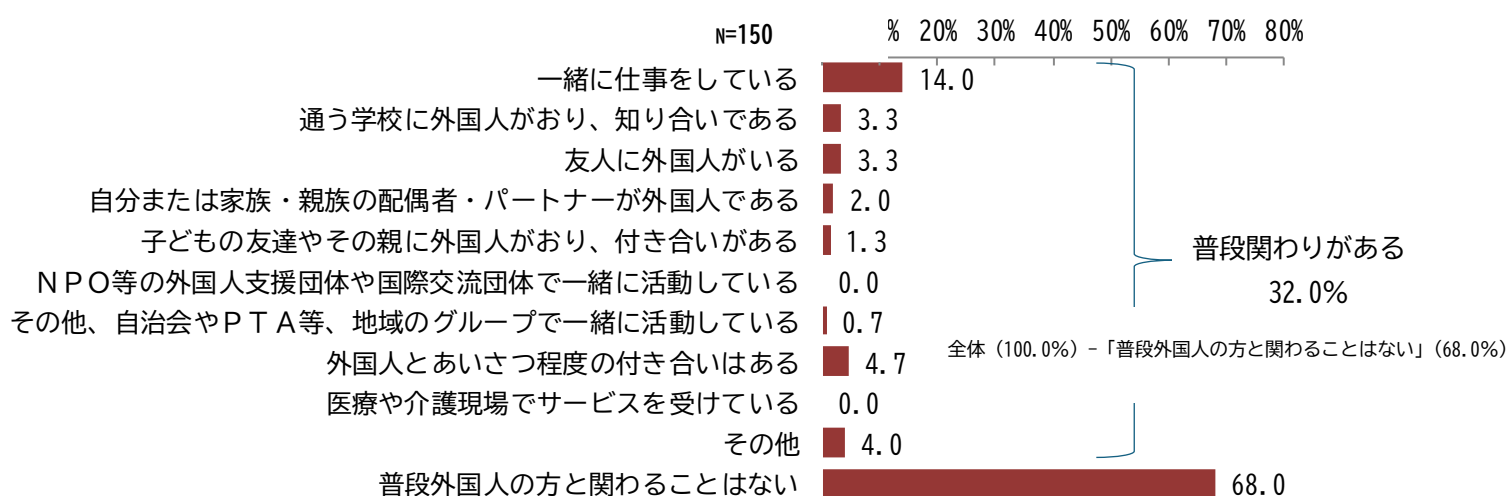
- 住み続けたい
- できれば住み続けたい
- あまり住み続けたくない
- 住み続けたくない

III. 日本人市民アンケート結果（抜粋）

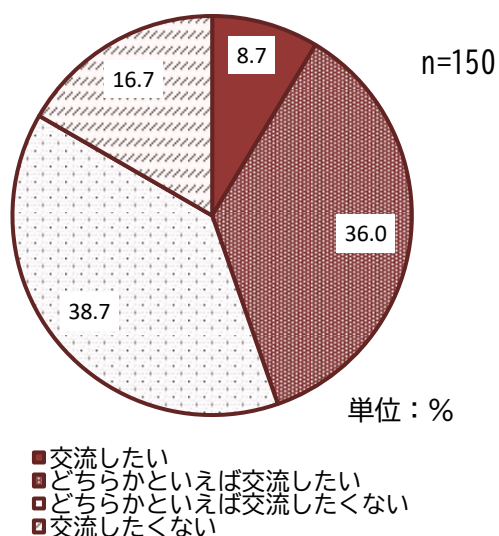
1 外国人市民との交流

- 外国人市民とののかかわりについて、「普段外国人の方と関わることはない」が 68.0%、関わりがある人が 32.0%となった。
- 外国人市民との交流の意向について、『交流したい』（交流したい+どちらかといえば交流したい）が 44.7%となり、外国人市民の日本人に対する交流への意欲と比べて意欲が低い結果となった。
- 外国人市民との交流の意向について外国人とののかかわりの有無別で比較したところ、普段外国人の方と「関わりがある」人ほど、交流に対して前向きな意向を示すことがわかる。

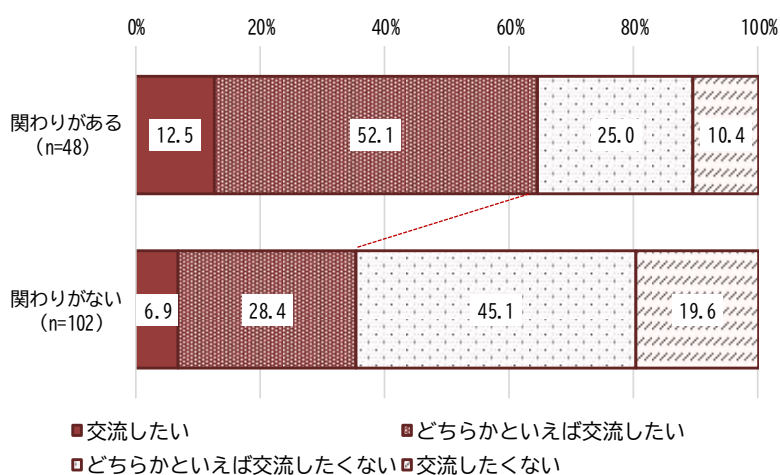
■普段の生活で外国人の方と関わることもあるか MA



■外国人市民と交流したいと思うか



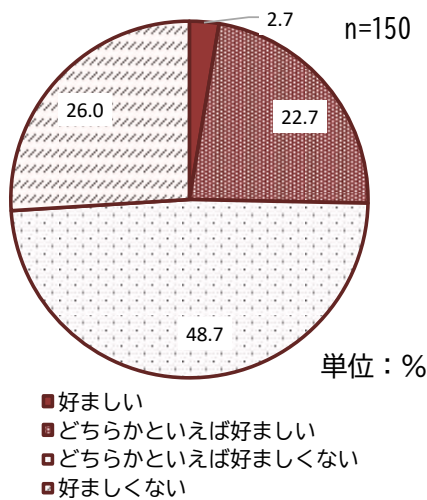
■外国人市民と交流したいと思うか（外国人との関わりの有無別）



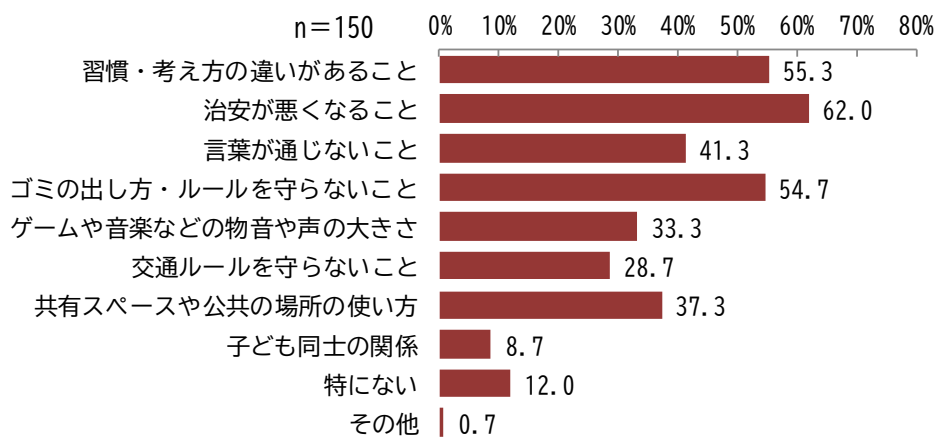
2 地域に外国人市民が増えることについて

- 地域に外国人市民が増えることについて、「好ましい」が 2.7%、「どちらかといえば好ましい」が 22.7%と、好ましく感じている割合が全体の 4 分の 1 にとどまっている。
- 外国人市民が暮らすことについて不安に思うことは、「治安が悪くなること」が 62.0%と最も高く、次いで「習慣・考え方の違いがあること」が 55.3%、「ゴミの出し方・ルールを守らないこと」が 54.7%となっている。
- 地域社会に外国人市民が増えることについて、「労働者不足の解消につながる」や「外国の言葉文化に触れる機会が増える」というポジティブな影響を認める意見が 6 割以上を占めている。一方で、「治安や風紀が乱れる」「言語や文化の違いでトラブルになる」といったネガティブな影響を感じる人の割合も 8 割以上と高くなっている。このように、一定の肯定的評価はあるものの、同時に不安感も強く、特に生活環境や安全面への懸念が大きい状況にあると考えられる。

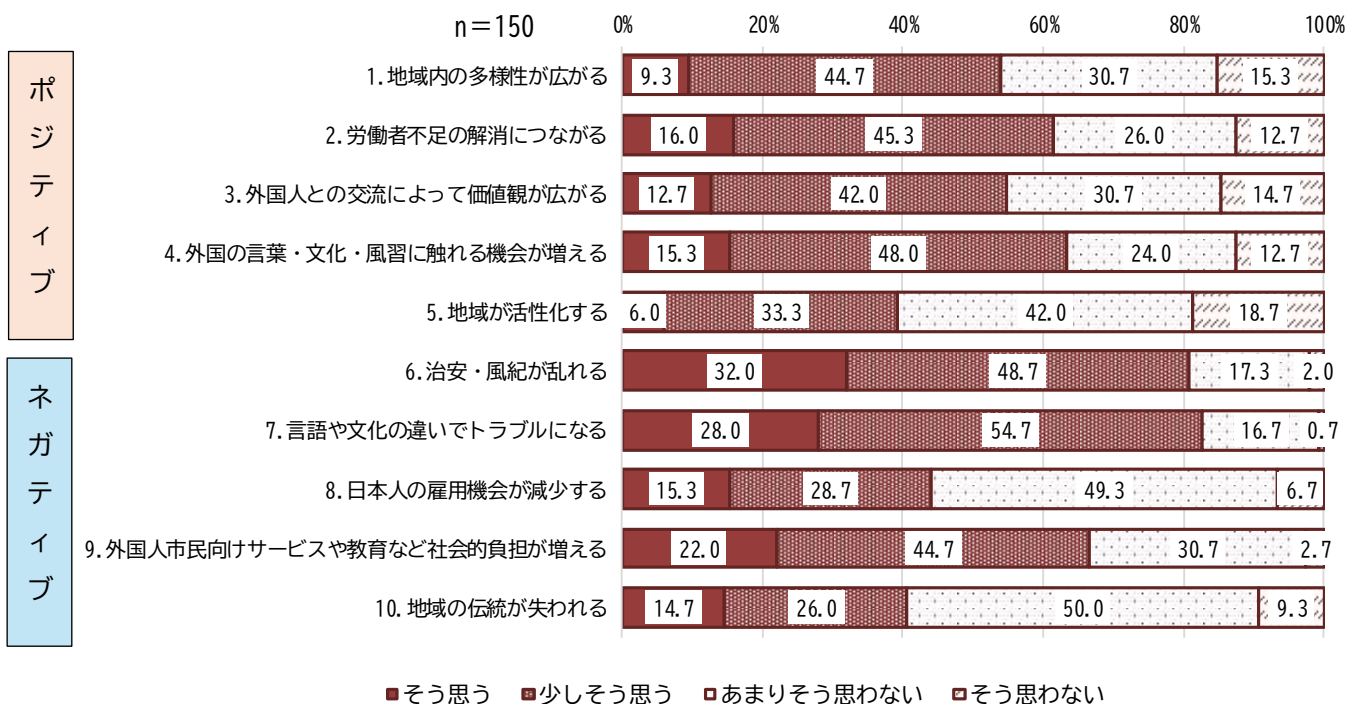
■地域に外国人住民が増えることについてどう思うか



■外国人市民が暮らすことについて不安に思うことはあるか MA



■地域社会に外国人市民が増えることの影響について

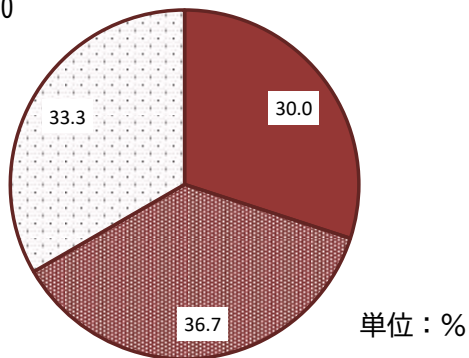


3 多文化共生の推進にあたって

- 「多文化共生」という言葉を聞いたことがあるかについて、「聞いたことがあり、意味も理解している」が30.0%となった。
- 周りに外国人市民への差別・偏見の意識を持った人がいるかについては、「いない」が24.0%にとどまり、「いる」が18.0%となった。
- 多文化共生社会の実現のため、蒲郡市が取り組むべきこととして、「生活ルールや習慣、文化などの周知」が41.3%と最も高くなっている。

■「多文化共生」という言葉を聞いたことがあるか

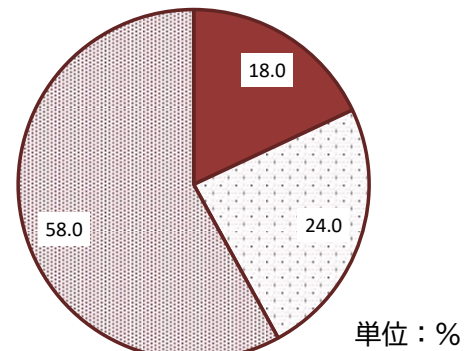
n=150



- 聞いたことがあり、意味も理解している
- 聞いたことはあるが、意味はあまり理解していない
- 聞いたことはない

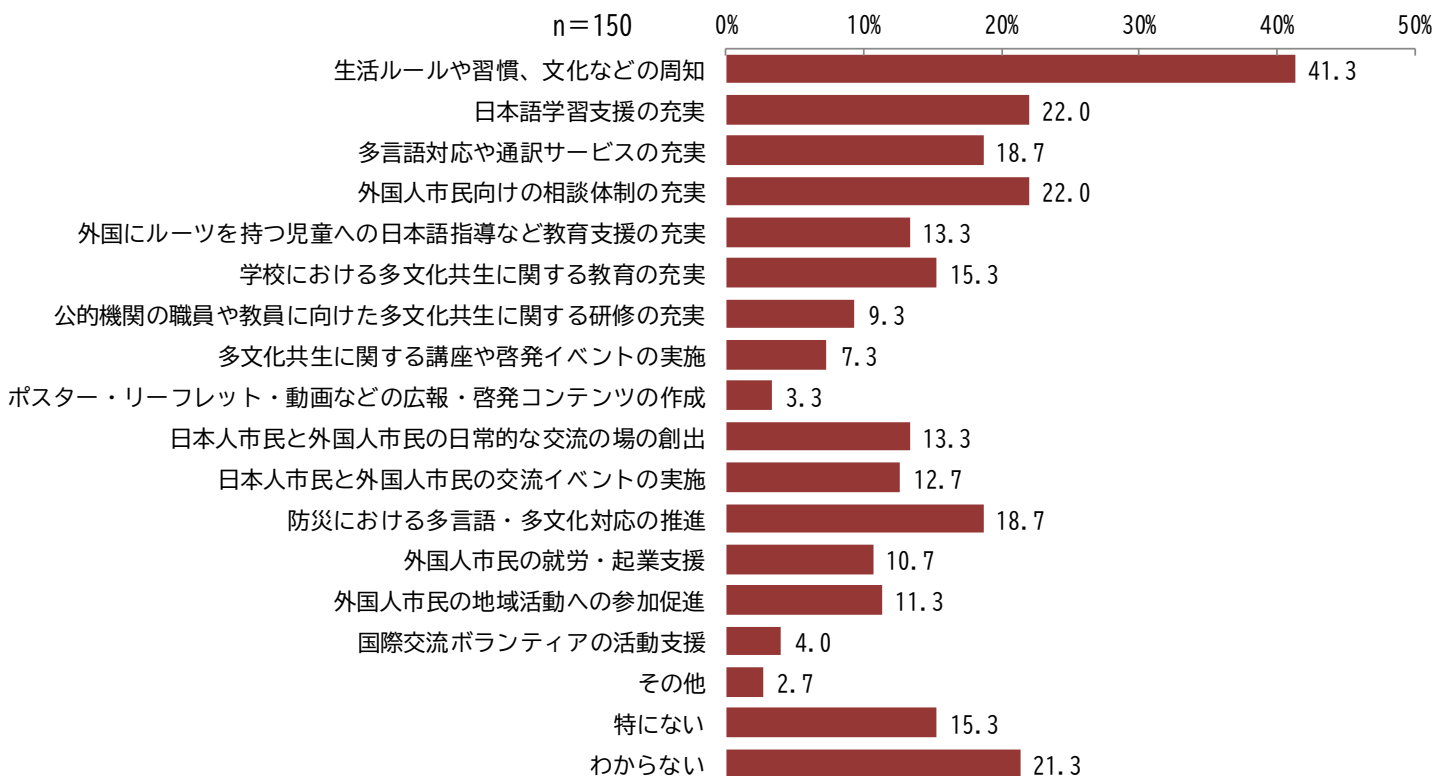
■周りに外国人市民への差別・偏見の意識を持った人がいるか

n=150



- いる
- いない
- わからない

■多文化共生社会実現のため、今後蒲郡市が取り組むべきことは何か MA



IV. 自治会ヒアリング

1 地域の課題について

- 言葉が伝わらないため、ゴミ出しのルールを守ってもらえずにトラブルになったり、町内会費の集金がうまくいかないといった課題がある。ゴミ出しのルールについては生活ガイドブックという多言語対応している冊子を利用して説明しようとしたが、うまく伝わらなかった。
- 防災訓練などの情報は基本的に回覧板で市民に共有されていくので、町内会に入ってもらえないと情報共有ができない。一方で、回覧板は多言語対応していないので、町内会に入っていたとしても情報が伝わっていない可能性がある。
- 言葉がうまく伝わらないことが根本の原因にあるので、言語の壁を解消できるような支援を行ってほしい。言語の問題が発生したときに、市役所に助けを求められるような仕組み・取組が欲しい。
- 蒲都市役所から外国人市民に対して、日本語学習の支援やゴミ出しのルールの講習会や町内会の説明をしてもらいたい。いろいろな冊子を作るだけでなくきちんと説明する機会を作ってほしい。

2 地域住民の交流について

- 町内会に入ることは交流のきっかけになると考えるが、町内会に入ってもらうのが難しい。
- 町内会のイベントがあっても外国人市民の人に伝える術がないので、市から支援が欲しい。
- 中学生の子供を持つ外国人の親については、子どもを通じて地域活動への参加が促進されている。
(例：防災訓練を自治会で実施し、中学生とその親に参加してもらうことで、外国人市民とのコミュニケーションの場が作られた)
- 生徒がいる家庭については町内会で交流のきっかけは作れるので、それ以外のかかわりがない外国人市民に声をかける方法や交流のきっかけを市役所に考えてもらいたい。
- 外国人市民のキーパーソンとなる人を発掘し、自治会とつなげて行ってほしい。

V. 蒲郡市の課題と方向性

課題① 日本語のコミュニケーション力の不足

- 外国人市民調査より、外国人市民の不安・困りごとの1位は「日本語のコミュニケーションに関すること」となっている。また、自治会ヒアリングでも、日本人市民側も「言葉がうまく伝わらない」ことからトラブルになったり交流ができなかったりしている事例が多く挙げられた。このことから、外国人市民の日本語能力向上を支援するとともに多言語対応を充実させるなど、言語の壁をなくすための取組が必要だと考えられる。

課題② 生活ルールやマナーによるトラブルへの懸念がある

- 日本人市民アンケートでは、地域に外国人市民が暮らすことでの不安について、「治安が悪くなる」「ゴミ出しの出し方・ルールが守られなくなる」ことを懸念する声が多く挙げられた。また、自治会ヒアリングでも、「ゴミ出しのルール」に関してのトラブルが多いとの結果だった。一方で、外国人市民は「日本の風習や地域のルールを理解したい」という意向が8割以上となっている。理解の意欲は高いことから、外国人市民に対し、生活ルールや地域マナーをわかりやすく、効果的に伝える仕組みを検討する必要がある。

課題③ 外国人相談窓口の認知度が低い

- 蒲郡市外国人相談窓口の認知度は5割にとどまった。また、困った時に一番に相談する相談先としては「家族・親族」「友人・知人」といった身近な人が多く、「市役所などの行政機関」や「警察」といった公的機関の割合は低い。身近な人への相談だけでは解決が難しい複雑な課題を抱える可能性もあることから、適切な支援につなげるため、相談窓口の存在を広く周知することが必要である。

課題④ 外国人市民に地域活動が周知されていない

- 外国人市民の日本人市民との交流意向は8割以上と高く、前向きな姿勢が見られる。一方で、地域活動への参加は4割弱にとどまり、活動自体を知らない人も一定数存在することが明らかとなった。地域活動の情報を効果的に周知することで、交流機会の創出につながると考えられる。

課題⑤ 日本人市民が受け入れに消極的な傾向がみられる

- 外国人市民からは交流への前向きな意欲が示された一方で、日本人市民の交流希望者は約4割にとどまった。また、回答者の約4分の3が外国人市民の増加を「好ましくない」と感じるなど、一定の懸念も見られた。調査全体を通して、外国人市民側には地域社会への前向きな意欲がある一方、受け入れる側の日本人市民に消極的な傾向がみられる。外国人市民へのネガティブな印象や先入観の解消のため、日本人市民への意識啓発や、外国人市民と関わる機会を増やし理解を深めることが必要だと考えられる。